

ハクガン（カモ科） 全長 67 センチ

11月下旬、野鳥大好き仲間 18人で大潟村に向った。

大潟村は渡り鳥たちの重要な中継地点であり、天然記念物や絶滅危惧種に指定される貴重な野鳥が多数飛来することから、県外からも大勢のバードウォッチャーが集まります。

ハクガンは僅か 10 年前までは、日本に数羽ほどしか飛来しない珍鳥でした。絶滅危惧ⅠA種にランクされる希少な野鳥です。国際的な保護繁殖活動の実績が実り徐々に飛来数が増え、今年はずいぶん 1000 羽の大台を超えたという情報があります。昨年は 100 羽を超すハクガンの群れがひらひらと田んぼに降りる光景を見て、まるで白い雪が降るようだと歓声が上がった。白鳥よりも更に鮮やかな白色です。



数百羽がひらひらと舞い降りた。(撮影：三浦登さん)

我が一行は大潟村に着くや否や、広大な田んぼからハクガンを見つけ出そうと双眼鏡で四方八方探し回った。

しかし、目星をつけたポイントを何か所も巡ってみたが、マガンやヒシクイばかりでハクガンは 1 羽も見つかりません。午後、かなり遠い田んぼの中、僅かに頭の部分だけが見える鳥が見つかった。あっ、ハクガンだ。こうしてやっとのことで見つけたハクガンは、なんと 500 羽以上、もしかしたら 1000 羽もいたかもしれません。(ほぼ真横からの観察でしたので、見えない個体もかなりあったと思います) 始めて見る大集団です。



約半分が幼鳥です。



成鳥と幼鳥。手前はヒシクイ。

ハクガンが逃げないように十分な距離を保ちました。

群れの中には体が灰色の幼鳥が半分以上も混ざっています。これは今年生まれた雛がそれほど多かったということになり、今までになかったほど増えていることとなります。(最初の写真を+ボタンで確認できます)

暫くすると、何かの拍子に数百羽が一斉に飛び立ち、我々の方へ向かい頭の真上を通り過ぎて行ったのです。普通は人間の姿を見ると反対側へ飛び去るのだが、こんな経験は初めてでした。全員から歓声があがり、拍手をする人も。

やっぱり大湊村は素晴らしい所です。寒さも忘れる全員満足の1日となりました。



親は首をもたげて周囲を警戒中。



翼の両端が黒いので識別されます。